

大学美術教育学会 会報 No.32

編集・発行 大学美術教育学会広報室
理事長 増田金吾 (東京学芸大学)
総務局長 芳賀正之 (静岡大学)
事務局 佐藤聡史 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912
TEL: 090-2560-5998/FAX:0268-61-6162
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp
事務局 〒602-804 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacoss.com

『大学美術教育学会の現在と未来』

大学美術教育学会副理事長 新関 伸也(滋賀大学)



「大学美術教育学会」は、教大協の「全国美術部門」を礎に、部門会員の研究発表の場から発展してきた学会です。「開かれた学会」をめざし、部門会員以外の方も入会、発表できるようになり、現在に至っています。平成 26 年度の部門会員は 327 名、学会会員は 744 名と、半数以上が部門に属さない会員で占めており、日本の美術教育の中で最も人数が多い学会にまで成長しました。他の 2 学会に後れを取りましたが、「日本学術会議協力学術研究団体」に登録することができ、量、質共に社会に対して責任のある学会となりました。

本学会は「全国美術部門」を母体にして誕生したために、事務局を各国立大学で長い間順次回しながら運営してきました。しかし法人化後、運営を担う各大学は多忙化し、人的にも余裕のない状態となりました。平成 20 年度以降、複数の大学教員等による総務局体制で運営を変更しましたが、職務を安定させることができず、ついに平成 26 年度、アウトソーシング(中西印刷に業務委託)に踏み切りました。導入初年度は、事務移行と運営の改革を同時に進めたことにより、会員の皆様には不便をおかけしたことと思います。諸課題も残されており、漸次解決していく所存ですが、学会誌『美術教育学研究』の刊行と全国大会の運営については、早急に改善すべき課題となっています。学会誌投稿は増加傾向にある一方で、大学の教科専門、教科教育の教員、小中高校教員、さらに博士課程に所属する院生など会員の多様なニーズによる論文に対して、適切な査読者の選定の難しさも露呈しているところです。また、論文の質保証や研究倫理等に抵触する投稿もあり、課題となっ

ています。これらに対応するための一歩として「研究倫理規定」が必要と判断し、制定に至りました。他に実務面では、学会誌の査読や編集の業務の効率化のため、Web 上で行う方法に取り組み、新規の論文からの J-STAGE 登録に向けて、論文の書式変更も行い、J-STAGE の審査を受けるなど、学術団体に相応しい体裁を整えるための手続きを進めました。さらに全国大会に関しては、中西印刷独自の e-naf+ (オンライン大会登録受付システム) の導入、つまり、一部の大会運営業務をアウトソーシングし、開催大学の負担の軽減を試みた成果が福井大会となりました。事前登録数の大幅な増により、参加人数が予想可能となり、予算面で安心感を持って大会開催ができるようになりました。また、ポスター発表と展示は開催大学の業務負担を鑑み、実施の有無は大会開催大学に一任していくことにもなりました。

今後の学会の活動では、三学会連携(美術科教育学会・大学美術教育学会・日本美術教育学会)が課題となります。中心となる組織が「造形芸術教育協議会」です。昨年 8 月に行われた第 7 回造形教育協議会では合同シンポジウムを企画し、平成 27 年 3 月 8 日に静岡で、「次期教育課程改訂に向けて美術教育研究は何を提起できるのか」をテーマに、三学会が共同でシンポジウムを行いました。ここでの成果はそれぞれの学会(大会)で引き継いでいくことを確認したところです。

なお、平成 27 年 9 月 20 日(日)、21 日(月)に横浜大会(横浜国大)が開催されます。美術教育の意義についての理解を深め、広く社会に存在をアピールして行く場になることを期待しています。

平成26年度 役員・各種委員会委員一覧

■理事長 増田金吾（東京学芸大学 26-27）

■副理事長

（正）小野康男（横浜国立大学 25-26）

（副）新関伸也（滋賀大学 26-27）

■特別委員 大嶋 彰（滋賀大学 26）

山口喜雄（宇都宮大学 26）

■総務局

総務局長 芳賀正之（静岡大学 26-27）

総務部長 佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

総務局理事

郡司明子（群馬大学 25-26）

松尾大介（上越教育大学 25-26）

喜多村徹雄（群馬大学 26-27）

石上城行（埼玉大学 26-27）

相田隆司（東京学芸大学 26-27）

畠山智宏（清和大学短期大学部
26-27）

■学会大会運営委員

宮崎光二（福井大学 25-26）

渡辺邦夫（横浜国立大学 26-27）

■監事

西村俊夫（上越教育大学 25-26）

小澤基弘（埼玉大学 24-26）

■事務部

佐藤聡史（民間 21-26）

■地区全国理事

I〔北海道〕

坂巻正美（北海道教育大学岩見沢校 25-26）

佐藤昌彦（北海道教育大学札幌校 26-27）

〔東北〕

蝦名敦子（弘前大学 25-26）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

II〔関東〕

松島さくら子（宇都宮大学 25-26）

茂木一司（群馬大学 26-27）

III〔北陸〕

隅 敦（富山大学 25-26）

阿部靖子（上越教育大学 26-27）

〔東海〕

松本昭彦（愛知教育大学 25-26）

山本政幸（岐阜大学 26-27）

IV〔近畿〕

岩村伸一（京都教育大大 25-26）

世ノ一善生（滋賀大学 26-27）

〔四国〕

福井一真（愛媛大学 25-26）

金子宜正（高知大学 26-27）

V〔中国〕

新井知生（島根大学 25-26）

福田隆眞（山口大学 26-27）

〔九州〕

栗山裕至（佐賀大学 25-26）

佐藤敬助（長崎大学 26-27）

■私立大学代表理事

磯部錦司（椛山女学園大学 25-26）

三澤一実（武蔵野美術大学 25-26）

■学会誌委員会（H26年度 18名）

委員長 新関伸也（滋賀大学 25-26）

副委員長 佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

新野貴則（山梨大学 25-26）

総務局兼任）

委員〔H25-26年度委員 7名〕

阿部 守（福岡教育大学 25-26）

新井 浩（福島大学 25-26）

奥村高明（聖徳大学 25-26）

南部正人（北海道教育大学旭川校 25-26）

平野千枝子（山梨大学 25-26）

三根和浪（広島大学 25-26）

鷲山 靖（金沢大学 25-26）

委員〔H26-27年度委員 8名〕

赤木里香子（岡山大学 26-27）

小野康男（横浜国立大学 25-27）

小谷 充（島根大学 26-27）

白井嘉尚（静岡大学 26-27）

竹井 史（愛知教育大学 26-27）

芳賀正之（静岡大学 26-27）

松本健義（上越教育大学 26-27）

山野てるひ（京都女子大学 26-27）

■国際交流委員会（H26年度 10名）

委員長 安東恭一郎（香川大学 26-27）

副委員長 鈴木幹雄（神戸大学 26-27）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

委員〔H26-27年度委員 6名〕

池内慈朗（埼玉大学 26-27）

中村和世（広島大学 26-27）

長田謙一（名古屋芸術大学 26-27）

福田隆眞（山口大学 26-27）

甲田小知代（新潟市立潟東中学校 26-27）

結城孝雄（東京家政大学 26-27）

協力委員

竹内とも子（千代田区立九段小学校 26-27）

平成26年度 各種委員会活動報告

■学会誌委員会

●平成26年度事業報告「美術教育学研究」47号

- ・9月12日(金)、投稿締め切り(中西印刷)、投稿論文受理数82編。
- ・9月21日(日)、書類不備1編を除き81編を1編につき2名の査読者に決定し依頼する。
- ・10月14日(火)までに、査読結果及び報告書をWeb上で返送。
- ・10月26日(月)、査読結果及び報告書に基づき委員会にて審議し、その結果、掲載可24編、再査読29編、不掲載28編となる。
- ・12月13日(土)、条件付論文について、2編の辞退をのぞいた50編の掲載を決定した。

●投稿数82編。査読数81編。

●掲載50編、不掲載29編、条件付き査読辞退2編。【掲載率は、62%(昨年度62%)】

●学会誌委員会開催報告

①学会誌委員会 幹事会(1)

5月16日(金)13:00~17:00(中西印刷)、発行スケジュール、査読システム確認

②学会誌委員会 幹事会(2)

7月27日(月)10:00~12:00(滋賀大学)、査読者リスト作成

③学会誌委員会 幹事会(3)

9月21日(日)9:00~12:30(静岡大学)、査読割り振り決定

④第1回学会誌委員会(福井大会)

10月3日(金)14:20~15:20(福井大学)、論文投稿等経過報告

⑤第2回学会誌委員会

10月26日(月)13:30~17:30(静岡駅前パルシェ会議室)、査読結果の審議

⑥学会誌委員会 幹事会(4)

11月9日(日)13:00~16:00(滋賀大学)、査読結果返送審議

⑦学会誌委員会 幹事会(5)

12月13日(土)13:00~17:30(滋賀大学)、再査読、条件付き論文掲載可否

⑧第3回学会誌委員会

平成27年3月14日(土)13:00~14:00(アットビジネスセンター東京駅)、年度事業総括

- ・平成27年1月30日(金)掲載負担金納入締め切り(中西印刷)
- ・平成27年3月31日(月)学会誌「美術教育学研究」47号発行・郵送(中西印刷)

●本学会「研究倫理規定」の設定

●「J-STAGE」掲載決定。第48号から掲載に伴い論文投稿細目等を変更予定

■国際交流委員会

平成26年度国際交流委員会は10月と3月に委員会を開催した。本年度は新委員の推挙、各委員の関連する国の教育状況の報告を行うと共に、IRCN第10号の発行及び次年度発行予定11号の編集方針・内容について協議した。

また、InSEAへの参加方針について学会員から提案があり、学会として国際学会との連携について協議した。

●新委員の推薦

国際交流委員会新委員として2名の推薦があり審議の結果新たに2名を委員とすることとした。

・池内委員から推薦、横浜国立・大泉先生 ブータンなど中央アジアとの交流実績があり推挙された。

・鈴木委員から推薦、広島文化学園・小笠原文先生 France 在住14年でFranceでの教育実践や関連研究実績があり推挙された。

委員の増員と共に、委員の交代についても同時に検討しなければならないこと。他の委員会のように地区ごとからの選出、順番によって選出することはできないので、2年間の任期中に委員としての活動実績(IRCNへの投稿がない、海外交流の活動報告がない)が見られない場合、協力委員になっていただくことが確認された。

●IRCN編集報告

第10号では「InSEA オーストラリア大会」を特集として参加・発表された先生に原稿執筆をして頂き多くの投稿を得た。第10号までは紙媒体での発行を行ってきたが、来年度からはWeb配信となるので、原稿量や提出画像の制約が変更されることが確認された。

第11号では、特集「世界の美術教育と教育実践」とし、平成26年度の福井大会・学会発表内容で海外美術教育を対象とした発表者に投稿原稿を依頼することとした。

●InSEA・国際学会との連携について

InSEAのアジア代表評議員となった学会員から、InSEAとの連携について提案をされ、協議した。

提案内容は・InSEAと日本との関係強化、日本の代表窓口を一本化する必要がある・大学美術教育学会がその窓口となり、海外に向けて情報発信していくことが必要・日本の美術教育を世界に発信していく必要があるなどであった。

これらを実現していくためには、IRCN・国際交流情報誌や大学美術教育学会ホームページ上で、InSEA関連情報を積極的に取り上げ学会員に世界の美術教育情報を情宣していく必要性が確認された。

第53回 大学美術教育学会 福井大会報告①

平成 26 年度 第 53 回大学美術教育学会 全国大会

開会式／総会

日 時：2014 年 10 月 4 日（土） 9:00～
会 場：総合研究棟 V（教育系 1 号館） 大 1 講
義室

〈開会式〉 9:30～9:40

司会進行：濱口 由美（福井大学）

1. 開会挨拶
学会理事長 増田 金吾（東京学芸大学）
2. 開催大学代表挨拶
部門大会実行委員長 宮崎 光二（福井大学）
3. 閉会挨拶
学会副理事長 小野 康男（横浜国立大学）

〈総 会〉 16:30～17:30

1. 挨拶
学会理事長 増田 金吾（東京学芸大学）
2. 議長団選出（議長候補：近畿地区・副議長候補：関東地区）
3. 議 事

【報告事項】

- (1) 会員登録・入会等報告
総務局長 芳賀 正之（静岡大学）
- (2) 平成 25 年度事業・決算報告
- (3) 平成 25 年度監査報告
監 事 西村 俊夫（上越教育大学）
小澤 基弘（埼玉大学）
- (4) 学会誌委員会報告
委員長 新関 伸也（滋賀大学）
- (5) 国際交流委員会報告
委員長 安東 恭一郎（香川大学）
- (6) その他

【協議事項】

- (1) 平成 26 年度役員・各種委員構成・任期 部
門代表
増田 金吾（東京学芸大学）
- (2) 平成 26 年度事業計画（案）・予算（案）
総務局長 芳賀 正之（静岡大学）
- (3) 大学美術教育学会の組織・運営等
学会部長 佐藤 賢司（大阪教育大学）
- (4) 平成 26 年度 大会開催大学（H26 横浜大会）
渡辺 邦夫（横浜国立大学）
- (5) その他

4. 議長団解任
5. 閉会の辞



第53回 大学美術教育学会 福井大会報告②

2014年10月4日(土)・5日(日)、私たちは「教えること・育てることー美術教育の原点を問い直す」を大会テーマに掲げ、第53回大学美術教育学会(福井大会)を、福井大学で開催いたしました。二日間の活動内容を企画者の立場から振り返ること、福井大会の報告とさせていただきます。



今回の福井大会は、政策としての教育改革案が次々と提起され、大学における教員養成の原則や教師教育の自律性が覆されるのではないかといった不安が高まる中での開催となりました。福井大会実行委員会では、このような潮流を真摯に受け止め、宮崎光二委員長をはじめとするスタッフ全員が「参加者一人一人が向き合うべき「問い」やその「問い」の根源と出会い直すことのできる「広場」を創り出そう」といった共有ビジョンを抱き、大会準備を進めて参りました。大会二日目のフォーラム会場は、私たちの共有ビジョンを具現化させた「広場」でもありました。たくさんの方々(学生の手作り)が並ぶ「広場」(会場)の装いに驚かれた方も多かったようです。

さて、その「広場」で、私たちはドキュメンタリー映画『かすかな光へー太田 生命のきずなへの道程(監督:森康行)』を、一人一人の「問い」を表出させるための鏡になることを願って上映いたしました。上映後は、小グループでの話し合いをもとに議論を重ねていきました。終了後、グループ協議に参加していたある大学教員の方から「自らの教育実践の在り様と実直に向き合おうとする院生の語りに引き込まれた」といった内容の感想を頂き、このフォーラム会場が、他者や事物との豊かな関係性を構築する「広場」としての役割を少なからずとも果たすことができたのではないかとうれしさがこみ上げて参りました。同時に、このような場の創出こそが「教育改革」や「美術教育」をより豊かなモノへと再構築するための「力

強い問い」を立ち上がらせる鍵になるのではないかという思いを一層強くしました。

さて、本大会には、全国津々浦々から約240名のご参加をいただきました。口頭発表53件、ポスター発表8件が、二日間にわたり行われました。口頭発表会場では、21世紀型の資質能力を育成するための実践的研究、海外における教育事情や制度の検討を通じた美術教育への提言、地域に根差した取り組みから美術教育の可能性を探るものなど、興味深い研究発表が続きました。広い廊下に設けられたポスター会場では、具体的な展示物(衣装)を手にした(身に付けていた)発表者との濃密なやりとりが交わされており、そこも「広場」へと導く大通りのようでもありました。

そして、「学生視点ー美術教育の夢を語ろうー」のテーマで取り組んだ「美術教育学生会議」。大きな「問い」にも小さな「問い」にも、本気で語り合うとする学生たちの熱い姿に感銘するとともに、会場を多くの方に参観していただける場所に設置していなかったことを悔やみました。美術教育の将来を担う学生たちにこのような開かれた学びの場を、積極的に提供していくことの責務も改めて感じさせられました。

最後になりましたが、福井大会がアウトソーシング化初年度ということもあり、開催にあたりましては、増田金吾学会理事長をはじめとする本部役員の皆様から多大なご支援を賜りました。とりわけ、芳賀正之総務局長には早期の準備段階から大会終了まで長きにわたり手厚いサポートを頂きました。また、北陸地区の皆様には、口頭発表の司会等でご協力を頂きました。みなさまのおかげで有意義な大会が開催できましたことを、福井大会実行委員会を代表致しまして心よりお礼申し上げます。

福井大学 濱口由美

第53回 大学美術教育学会 福井大会報告〈総会〉

平成26年度 大学美術教育学会 総会 議事録

平成26年10月5日(日) 14:15~16:30
福井大学(文教キャンパス) 総合研究棟V(教育系1号館) 大1講義室

1. 挨拶

議事に先立ち、先ず増田理事長から挨拶があった。

2. 議長団選出

議長として、近畿地区の佐藤委員、副議長として関東地区の小野委員が選出された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 平成26年度会員登録・入会登録について、芳賀総務局長より744名の会員が登録されている旨の報告があった。

(2) 平成25年度事業・決算について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

(3) 平成25年度会計監査について、西村監事より配布資料をもとに報告された。

(4) 新関委員長より、先ず、今年度の学会誌投稿数等の学会誌編集の進捗状況について報告があり、そして多様な専門の投稿者に適した査読者選定の難しさ、近年の投稿される論文の内容や研究倫理等の諸問題等の説明があった。また、査読の諸業務をweb上化する際の諸手続きの変更について説明があり、関係する会員への協力が依頼された。併せて、J-STAGE登録に向けた、論文の書式変更等及び、著作権の学会への譲渡、新規の論文のみのJ-STAGE登録について説明された。

査読者の選定について質問があり、改善の方策は委員会で個別に検討する旨の回答がされた。

(2) 国際交流委員会の新規委員、情報誌の発行について、安東委員長より報告があった。また、INSEAから、日本の美術教育の現状把握を促進するために、本学会を窓口することの提案を受けた旨の報告がされた。今後は、本委員会よりINSEAの情報を、積極的に発信していく意向が示された。

【協議事項】

(1) 平成26年度人事役員・各種委員構成・任期について、増田理事長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

(2) 平成26年度事業計画(案)・予算(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

(3) 平成27年度美術部門の組織・運営等にかかわる研究倫理規定(案)について、佐藤部長より、配布資料を基に説明があり、承認された。なお規定は、HPに掲載することが報告された。

(4) 渡辺大会運営委員より、平成27年9月20日(日)、21日(月)開催の全国大会横浜大会(仮象)について説明があり、承認された。

4. 議長団の解任

5. 閉会の辞

小野副理事より閉会の挨拶があった。



平成26年度 第1回 拡大理事会報告①

日時：平成26年10月3日（金）15：30～17：00

場所：福井大学（文教キャンパス）

総合研究棟V（教育系1号館）大会議室

I. 挨拶

議事に先立ち、先ず新関副理事長から開会の辞があり、次いで増田理事長より挨拶があった。

II. 報告・協議

（報告事項）

1 平成26年度学会会員現況

平成25年度学会会員・名簿状況について、会員744名が登録されている旨の報告が、芳賀総務局長からなされた。

2 中西印刷の業務委託【部門と共通】

（1）大嶋彰特別委員より、中西印刷への業務委託契約について報告があった。

（2）大嶋特別委員より、業務委託の経緯および内容について報告があった。

（3）芳賀総務局長より、業務委託による部門および学会の運営について説明があった。併せて、新関学会誌委員長より、業務委託による学会誌編集について説明があった。

（4）e-naf+（オンライン大会登録受付システム）の導入による事前登録数の大幅な増について、芳賀総務局長より報告があった。

3 事業報告

（1）平成25年度学会事業について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

4 平成26年度 福井大会の日程【部門と共通】

（1）福井大会日程等について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

（2）大会前日の会議について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

（3）拡大理事会、総会等の議題等について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

5 平成26年度 部門・学会の合同開会式・総会・協議会

（1）芳賀総務局長より、本年度の学会から、部門と学会の合同による開会式・総会・協議会を行う旨の報告があった。

6 平成26年度 福井大会の内容等

（1）研究発表について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。また、ネットによる発表者の登録、概要原稿の受付等について説明があった。アウトソーシング化初年度ということもあり、締め切り後の受付等、煩雑な対応に追われたため、次年度以降は、締め切り厳守で対応していく旨の意向が示された。

（2）フォーラムの概要について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

（3）芳賀総務局長より、大会の司会者等の諸業務を、福井大会では全国5ブロックのうち、北陸・東海ブロックの会員で担当する予定であったが、今回は北陸地区会の会員で担当する旨の報告があった。併せて、次年度以降、ブロックごとによる大会運営の協力について依頼があった。

（4）芳賀総務局長より、業務委託による概要集の編集について報告があった。

7 ポスター発表と展示

ポスター発表と展示については、次年度以降も基本的に継続して行う意向であるが、開催大学の業務負担を鑑み、実施の有無は、大会開催大学に一任していく旨の報告が芳賀総務局長よりなされた。

8 部門各種委員会

（1）学会誌委員会

新関委員長より、先ず、今年度の学会誌投稿数等の報告があり、学会誌編集の進捗状況について報告され、多様な専門の投稿者に適した査読者選定の難しさ、近年の投稿される論文の内容や研究倫理等の諸問題について説明があった。また、査読の諸業務をweb化する際の諸手続きの変更について説明があり、関係する会員への協力が依頼された。

（2）国際交流委員会

安東委員長より、新規委員、情報誌の発行について報告があった。また、INSEA から、日本の美術教育の現状把握を促進するために、本学会を窓口することの提案を受けた旨の報告があった。そして今後、INSEA の情報を本委員会から積極的に発信していく意向が示された。

平成26年度 第1回 拡大理事会報告②

9 第7回造形芸術教育協議会

増田理事長より、8月18日に行われた第7回造形教育協議会について、配布資料をもとに報告があった。

10 総務局・事務部より【部門と共通】

(1) 会報

芳賀総務局長より、経費削減のため、会報をHPで掲載する予定であったが、移行期間の状況を考慮し、当面は紙媒体発行する旨の報告があった。また、来年度以降、会報の内容を適宜簡略化した上で、編集作業を総務局委員で分担することの報告があった。

(2) 新ホームページの運用

芳賀総務局長より、新ホームページの管理、更新について報告があった。

11 その他

(1) 概要集のデザイン

芳賀総務局長より、今後、統一したイメージの表紙デザインを概要集に使用することについて説明があった。ただし、表紙におけるマークや英語の記載については、継続して検討する旨の報告があった。

【協議事項】

1 平成26年度役員・委員会

(1) 平成25年度人事(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

2 決算・予算・事業計画

(1) 平成25年度決算(案)について、芳賀総務局長より説明があり、承認された。

(2) 平成25年度会計監査について、小澤監事より説明があり、承認された。

(3) 平成26年度事業計画(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

(4) 平成25年度予算(案)について、芳賀総務局長より説明があり、承認された。

3 学会誌

(1) 新関委員長より、先ずJ-STAGE登録に向けた、論文の書式変更等について説明がされ、次いで投稿者へのチェックリストの配布が提案され、承認された。また、著作権の学会への譲渡、J-STAGEへの掲載は新規の論文に限るという旨の説明があり、承認された。

(2) 新関委員長より、研究倫理規定(案)について配布資料をもとに説明があり、承認された。

(3) 新関委員長より、会員未登録者への学会誌の販売について、バックナンバーの管理や販売の諸規定に不備がある現状においては、当面の間、販売をしない旨の説明があり、承認された。

4 平成27年度 大会開催大学

渡辺大会運営委員より、平成27年9月20日(日)、21日(月)開催の全国大会横浜大会(仮象)について説明があり、承認された。

5 その他

芳賀総務局長より、経費の削減のため、27年3月に開催される第2回拡大理事会では、これまで2名の出席であった地区理事を、各地区につき1名の出席を求める旨の提案があり、承認された。

Ⅲ その他

(1) 平成26年度学会全国大会(北陸・東海地区)の開催について、宮崎大会運営委員より挨拶があった。

Ⅳ 挨拶

省略された。



平成26年度 第2回 拡大理事会報告①

日時：平成27年3月14日（土）14：15～16：30

会場：アットビジネスセンター東京駅 305号室

I. 挨拶

議事に先立ち、先ず新関副理事長から開会の辞があり、次いで増田理事長より挨拶があった。

II. 報告・協議

〈報告事項〉

1 平成26年度大学美術教育学会事業報告

芳賀総務局長より、26年度の学会事業について配布資料をもとに報告された。

2 福井大会報告【部門と共通】

芳賀総務局長より、福井大会の参加者人数等が報告された。なお、学会大会運営員からの詳しい報告については、後日会報等で通知する旨が連絡された。

3 学会誌委員会報告

(1) 「美術教育学研究」47号刊行

新関委員長より、学会誌の刊行について報告された。

(2) 学会誌編集

新関委員長より、先ず学会誌編集の経過と結果が報告された。次いで、査読後の著者による大幅な訂正等の問題について説明があった。

(3) J-Stage申請

先ず新関委員長から、web上での公開をJ-Stageへ申請し、正式に決定した旨の報告があった。公開にかかわる著作権や肖像権の扱い等の諸規定を変更し、各執筆者に周知していく意向が示された。次いで、相田総務局理事より、2016年3月発行の学会誌48号が、2017年4月よりweb上で公開される等の報告があった。

4 国際交流委員会報告

煤孫副委員長より、広報誌編集の進捗状況等が報告された。

5 造形芸術教育協議会（三学会連携協議）

(1) 第8回造形芸術教育協議会

先ず、増田理事長より3月8日開催の造形芸術教育協議会について、配布資料をもとに報告された。次いで、新関副理事長から、協議会設

立の経緯と今後の方向性について説明があった。

(2) 三学会合同シンポジウム

芳賀総務局長より、シンポジウムの内容について配布資料をもとに報告された。

6 教育関連学会連絡協議会

芳賀総務局長より、協議会の内容について配布資料をもとに報告された。

〈協議事項〉

1 平成27年度役員・委員会

(1) 学会役員・各種委員会

先ず芳賀総務局長より、役員・各種委員会について配布資料をもとに説明があった。来年度の全国地区理事を各地区で選出し、メール等で通知するよう依頼があり、了承された。

(2) 平成28年度の総務局体制

芳賀総務局長より、学会運営諸業務のアウトソーシング化にともなう、28年度以降の総務局の体制の整理について説明があり、確認された。

2 決算・予算・事業計画

(1) 平成27年度大学美術教育学会事業計画（案）

芳賀総務局長より、平成27年度事業計画（案）について、配布資料をもとに説明があり、承認された。

(2) 平成26年度大学美術教育学会決算・平成27年度学会予算（案）

芳賀総務局長より、平成26年度決算・平成27年予算（案）について説明があった。最終的な決算および予算（案）は、26年度終了後に提示し、審議することが確認された。

3 平成27年度 全国大会

(1) 横浜大会の日程等

渡辺大会運営委員より、次期大会を9月20日（日）、21日（月）に横浜国立大学で開催することが説明され、確認された。

(2) 横浜大会の内容等

先ず渡辺大会運営員から、会員以外の現場の教員にも実践報告の場を設ける等、大会の計画や準備の進捗状況について説明があり、意見がもとめられた。併せて、大会運営の協力が依頼された。

平成26年度 第2回 拡大理事会報告②

次いで芳賀総務局長から、福井大会で試みた、部門と学会の合同による開会式・総会・協議会を継続して実施する等、今後も学会と部門との連携を図っていく意向が示された。

- (3) 中西印刷の e-naf+（オンライン大会登録受付システム）

芳賀総務局長から、先ず e-naf+による演題受付、参加申込、懇親会申込、入金管理について説明された。次いで、大会の企画や懇親会等を中心とした開催大学への業務分担について説明があった。

4 その他

- (1) 芳賀総務局長より、次回拡大理事会で平成27年度の役員委員の選出について承認を得る旨の連絡があった。

- (2) 福田全国地区理事より、鳥取大学の部門への機関加盟について質問があった。加盟の諸手続きについて、増田理事長からメール等で回答する旨が説明された。

- (3) 芳賀総務局長より、9月19日（土）開催の拡大理事会への地区全国理事各地区2名の出席が依頼された。

- (4) 平成28年度北海道大会について

佐藤大会運営委員から、北海道大会の運営体制について説明があり、業務のアウトソーシング化による、開催大学の業務分担を文書で明示するよう要望があった。次いで、芳賀総務局長より、学会運営の業務分担をマニュアル化していく意向が示された。

Ⅲ. その他

1 総務局・事務部より【部門と共通】

- (1) 会報について

芳賀総務局長から、各地区理事に会報の原稿執筆について依頼があった。

- (2) 事務部について

芳賀総務局長より、事務部の体制の現状と今後の整理の方向性について説明があった。

- (3) 会計担当について

芳賀総務局長より、アウトソーシング化にかかわる会計業務の整理を図りつつ、次年度以降、芳賀総務局長から松尾総務局理事に会計担当を委譲していく旨の説明があった。

Ⅳ. 挨拶

新関副理事長より閉会の辞があった。

重要なお知らせ 運営委員会体制の変更について

現在の総務局体制になって、私どもは日本教育大学協会全国美術部門及び大学美術教育学会の効率的で持続可能な運営をめざしてきました。その過程では諸課題が見いだされつつあります。その一つに運営に携わる会員の業務の負担増があります。これまで各種委員会委員長は全ての運営委員会に参加していただきましたが、運営委員会の方法を検討した結果、議題に応じて参加していただくことで少しでも負担の軽減を目指すということを考えました。よりよい運営を目指しておりますので、各位におかれましては今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

大学美術教育学会理事長 増田金吾

平成25年度 事業報告

6月9日(日)	学会運営委員会(オフィス東京)
6月16日(日)	第1回学会誌委員会
6月中旬	「京都大会案内(第2次)」研究発表(口頭)・ポスター発表・ポスター展示・投稿論文登録の「申込案内」平成24年度会計監査(小澤監事・増田監事)
7月20日(土)	大学美術教育学会「京都大会」研究発表(口頭)・ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切
7月31日(水)	研究発表(口頭)・ポスター発表「概要集原稿」提出締切
9月8日(日)	「投稿論文」締切(消印有効)
9月10日(火)	「学会会報・29号」(「京都大会案内(最終)」)
9月12日(木)	京都大会参加申込 締切
9月15日(日)	学会運営委員会(東京学芸大学)
10月11日(金)	大会前日諸会議(拡大総務局会、第1回拡大理事会、各種委員会(第2回学会誌委員会・国際交流委員会))(京教大)
10月12日(土)	第52回大学美術教育学会「京都大会」開催(京都教育大学)、学会総会、シンポジウム、研究発表(口頭)、ポスター発表・ポスター展示 学会・部門合同懇親会
10月13日(日)	研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-京都教育大学)
10月26日(土)	第3回学会誌委員会
12月17日(火)	「投稿論文の最終提出」提出締切(必着)、学会誌編集作業開始
(平成26年)	
1月25日(土)	学会運営委員会・次期代表選考
1月末	投稿論文掲載者による掲載負担金納入
2月16日(日)	造形芸術教育協議会関係(三学会連携協議)
2月末	投稿論文(校了)
3月15日(土)	拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会(第4回学会誌委員会・国際交流委員会)(TKP 東京・京橋)
3月中旬	「学会誌・第46号」発行・郵送、「学会会報・第30号」(次期大会予告)発行、「学会会員名簿2013」発行・発送
3月末日	年度組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ

平成26年度 事業計画

6月22日(日)	第1回 運営委員会(静岡/パルシェ7F・会議室)
6月下旬	「福井大会案内(第1次)」研究発表(口頭)・投稿論文登録の「申込案内」
8月8日(金)	事前投稿登録
8月18日(月)	造形芸術教育協議会関係(三学会連携協議)
9月1日(月)	大学美術教育学会「福井大会」研究発表(口頭)の「申込」締切 「概要集原稿」提出締切
9月8日(月)	ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切
9月10日(水)	「学会会報・31号/福井大会案内(最終)」
9月12日(金)	「投稿論文」締切(必着)
9月中旬	平成25年度会計監査(西村監事・小澤監事)
9月19日(金)	福井大会参加申込 締切
9月21日(日)	第2回 運営委員会(静岡/パルシェ7F・会議室)
10月3日(金)	大会前日諸会議(拡大総務局会、第1回拡大理事会、各種委員会(第1回学会誌委員会・国際交流委員会))
10月4日(土)	第53回大学美術教育学会「福井大会」開催式(福井大学)、学会総会、研究発表(口頭)、学会・部門合同懇親会
10月5日(日)	シンポジウム、ポスター発表・ポスター展示、研究発表(口頭)、閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-横浜国立大学)
10月26日(日)	第2回学会誌委員会
12月10日(水)	「投稿論文の最終提出」提出締切(必着)、学会誌編集作業開始
(平成27年)	
1月30日(金)	投稿論文掲載者による掲載負担金納入(厳守)
2月21日(土)	第3回運営委員会(静岡)
2月22日(日)	第8回造形芸術教育協議会(三学会連携協議)
3月8日(日)	三学会合同シンポジウム(静岡)
3月14日(土)	拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会(第3回学会誌委員会・国際交流委員会)(場所 東京)
3月末日	次年度 組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ 「学会誌・第47号」発行・郵送、「学会会報・第32号」(次期大会予告)発行

大学美術教育学会
平成25年度 決算

●収入

	費 目	平成25年度予算	平成25年度決算	増 減
	前年度繰越	1,625,611	1,625,611	0
年会費	会費収入	3,500,000	3,038,000	462,000
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,680,000	1,080,000	600,000
その他収入	雑収入	0	6,000	-6,000
	収入合計	6,805,611	5,749,611	

●支出

	費 目	平成25年度予算	平成25年度決算	増 減
補助金	研究大会補助金	300,000	300,000	0
印刷製本費	大会概要集刊行費	200,000	200,000	0
	学会誌刊行費	2,200,000	1,582,822	617,178
	学会会報通信刊行費	150,000	64,790	85,210
	学会誌リニューアル費	50,000	50,000	0
	会員名簿刊行費	200,000	0	200,000
	封筒その他印刷費	100,000	87,230	12,770
運営費	運営委員会費	500,000	881,730	-381,730
	学会誌委員会費	250,000	204,060	45,940
	国際交流委員会費	150,000	87,590	62,410
	拡大理事会費	400,000	279,240	120,760
	会議費	200,000	129,932	70,068
事務経費	通信費	10,000	10,000	0
	郵送費	600,000	714,931	-114,931
	事務費	30,000	12,456	17,544
	支払手数料	10,000	3,996	6,004
	サーバー使用料	30,000	5,490	24,510
	雑費	30,000	0	30,000
委託費	事務部業務委託費	500,000	447,200	52,800
	HP管理費	60,000	60,000	0
負担金	教育関連学会連絡協議会 平成25年度会費	10,000	10,000	0
予備費	予備費	825,611	618,144	207,467
	合 計	6,805,611	5,749,611	

大学美術教育学会
平成26年度 予算（案）

●収入

	費目	平成25年度予算	平成26年度予算	増減
	前年度繰越	1,625,611	618,144	1,007,467
年会費	会費収入	3,500,000	5,200,000	-1,700,000
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,680,000	3,000,000	-1,320,000
その他収入	雑収入	0	0	0
	収入合計	6,805,611	8,818,144	

※1 会費収入=@8,000円×650名

※2 学会誌掲載負担金=@30,000×100

●支出

	費目	平成25年度予算	平成26年度予算	増減
補助金	研究大会補助金	300,000	50,000	250,000
印刷製本費	大会概要集刊行費	200,000	400,000	-200,000
	学会誌刊行費	2,200,000	1,450,000	750,000
	学会会報通信刊行費	150,000	300,000	-150,000
	学会誌リニューアル費	50,000	0	0
	会員名簿刊行費	200,000	0	0
	封筒その他印刷費	100,000	100,000	0
運営費	運営委員会費	500,000	300,000	200,000
	学会誌委員会費	250,000	200,000	50,000
	国際交流委員会費	150,000	100,000	50,000
	拡大理事会費	400,000	300,000	100,000
	造形芸術教育協議会		100,000	-100,000
	会議費	200,000	100,000	100,000
事務経費	通信費	10,000	10,000	0
	郵送費	600,000	600,000	0
	事務費	30,000	30,000	0
	支払手数料	10,000	10,000	0
	サーバー使用料	30,000	0	30,000
	雑費	30,000	30,000	0
委託費	事務部業務委託費	500,000	150,000	350,000
	事務支局業務委託費		2,000,000	-2,000,000
	学会誌編集委託費		450,000	-450,000
	大会受付業務委託費		320,000	-320,000
	HP管理費	60,000	60,000	0
負担金	教育関連学会連絡協議会	10,000	10,000	0
	平成26年度会費			
予備費	予備費	825,611	1,748,144	1,032,533
	合計	6,805,611	8,818,144	

※事務支局業務委託費（中西印刷）については初年度の委託費、HP制作費を含んでいる。

第54回 大学美術教育学会 横浜大会〈案内〉

- 主催 大学美術教育学会、日本教育大学協会全国美術部門
大学美術教育学会・教大協会全国美術部門横浜大会実行委員会
- 協賛 横浜国立大学
- 後援 横浜市教育委員会（申請中）神奈川県教育委員会（申請中）
- 開催日 2015年 9月20日（日）21日（月祝）
- 大会テーマ「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」
- シンポジウムテーマ「美術の現状 教科としての価値の再定義」

ごあいさつ

平成27年度大学美術教育学会（横浜大会）並びに、日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会を横浜国立大学で開催いたします。口頭発表、ポスター発表、ポスター展示の研究発表、シンポジウム（詳細後述）、学部学生の為の美術教育学生会議などが開催されます。また、新たに大会併設企画「造形教育実践フォーラム」を開催、地元現職教員による授業実践報告の展示と共にセッションを企画しました。大学の研究者教員が養成してきた教育現場の教員との交流や連携こそ最も大切なことではないかと考えての企画です。会員の皆様、並びに、興味関心のお有りの方ならどなたでもご参加いただけます。振るって御参加の程、心よりお待ち申し上げます。

横浜大会の全体テーマは、「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」です。急速な国際化・情報化に伴い「多様な文化や差異を受容する新たな教育理念」が必要とされる今日、様々な「感性」や「表現」、そしてそれを開く「教員養成の未来」について、光を当てて参りたいと思います。今、子ども達を取り巻く社会や自然の環境には大きな変動が起きています。今こそ、人はどうあるべきか？何をなすべきなのか？何が必要なのか？といった、人が生きる意味や人の存在そのものに深い問いかけが必要になってきています。本大会は「図画工作・美術科教員の育成」を全体テーマとしてかかげ、図画工作・美術教育の意義を深い次元で問い直す大会としたいと思います。

大会シンポジウムのテーマは「美術の現状 教科としての価値の再定義」としました。図画工作・美術という教科が、現在、置かれている現状と 課題について教科の外部からの視点も必要です。そのため、特別外部招聘パネリストとして、東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長の木下史青 氏をお迎えし、19世紀から20世紀にかけて視覚聴覚のアナログメディアが出現、20世紀後半にデジタルメディアに移行した世界に於いて、本物、或は、モノのもつ価値について再考したいと思います。またもう一人、外部からパネリストとして、イタリアルネサンス期の美術を専門とする一方、美術研究の方法論の最先端で活躍され、ご自身「思考のイメージ論的転回」というテーマを提唱されている京都大学人間環境学研究所の岡田温司 教授もお迎えし、芸術の概念自体が変容した20世紀に続く21世紀に於ける「図画工作・美術科教育の将来あるべき姿」について多角的に議論します。

図画工作・美術科教員の養成に於いて、教員を目指す学生は何を学修するのか。とりわけ、子どもたちの能動的で創造性豊かな学びが要求されている現代に於いて、「感性」と「表現」の教科である図画工作・美術科はいかなる役割を果たしていくのかについて考えたいと思います。

今、様々な「時代の岐路」に於いて、子どもの成長・発達に美術教育が如何に貢献できるのか、美術教科の必要性そのものが改めて問われているのではないのでしょうか。本大会は美術教育に関する最新の研究や提言、並びに参加者の皆様との交流の場を複数準備しております。是非、御参加いただき、参加者の皆様方、相互に実りある大会となりましたらなら、開催大学として、これに勝る喜びはございません。重ねて多数のご参加の程、お願い申し上げます。

横浜大会実行委員長 渡辺邦夫

3 学会の中の大学美術教育学会

平成 26 年度学会総務部長
佐藤賢司(大阪教育大学)

大学美術教育学会、美術科教育学会、日本美術教育学会の3学会の連携については、2008年のInSEA世界大会(大阪)を機にその重要性が指摘され、「造形芸術教育協議会」による具体的な取り組みがはじまりました。最近では、2015年3月に静岡でシンポジウムが開催され、次期教育課程改訂に向けて議論が交わされました。また、美術科教育学会では学会通信86号(2014.6)で3学会連携の特集が生まれ、これまでの経緯や行政との関係、国際的な立場や教育研究の在り方などから、課題や今後の方向性が考察されています。

現在の美術教育研究の状況を考えれば、国際的な窓口の整備、教育研究に共通した定義・用語の基準検討など、3学会が連携して早急に取り組むべき課題のいくつかは明らかになっていると言ってよいでしょう。研究発表や投稿論文の分野・内容にも多くの共通点があり、ことさら立場の違いを主張するのではなく、共通の課題から建設的な議論を進める必要があります。

しかし一方、それぞれの学会が歴史的に培ってきた個々の「らしさ※」は、やはり美術教育研究の財産と言えます。大学美術教育学会の場合、その一つが、大学の教科専門の教員の参加にあることは間違いありません。教大協美術部門との関係についての様々な意見はあるにしても、現実にはこのことが学会の大きな力であることは確かです。

美術教育の実践は、美術の活動を通して実現します。当たり前のことですが、教科としての図工・美術にとっては、表現であれ鑑賞であれ、その活動の質が最も重要であり、それを横に置いた方法論のみの追求は、子どもの学びの深まりには繋がりません。

教科専門の教員が学校現場に積極的にかわりを持つことで生まれる新たな状況や、大学の実技授業内容を教師としての資質により明確に結び付ける試みなど、この学会ならではの研究成果は、実は教員養成系大学・課程のこれからの在り方とも大きく関わっています。さらに言うのならば、そこで学んだ学生たちがやがて学校現場で美術教育の実践者となるという点で、より直接的・具体的に子どもの学びにつながっているのです。

もちろん、現場の教員の実践的な研究や大学院生などの斬新な試みなど、多様な立場からのアプローチの集積が、美術教育研究の新たな地平をつくっていくことは間違いありません。その核となる大学が「この本質を考える場所」であり続けることは何にもまして重要であり、私たちの学会は、その重責を担っていると考えられるのです。

(※美術科教育学会通信86, p.27 藤江充氏記事より)

造形芸術教育協議会・シンポジウム

平成 26 年度総務局長
芳賀正之(静岡大学)

平成 21 年度、造形美術教育の理論研究を通してその振興を図ることを目的として「日本美術教育学会」「大学美術教育学会」「美術科教育学会」の三学会によって、「造形芸術教育協議会」が結成されました。連携の具体的な課題を協議し、それぞれの大会への相互参加の活性化や情報交換、共通の課題に関するシンポの開催や共催などを進めてきました。平成 26 年度の活動において、次期教育課程改訂に向けて「美術教育研究の立場から何を提起できるか」を中心に三学会が共同でシンポジウムを開催しました。(平成 27 年 3 月 8 日(日) / 会場: JR 静岡駅ビル「パルシェ」会議室)

学会の大会の中での企画とは別に、独自に三学会が連携してのはじめてのシンポジウムであり、基調報告として、まず藤江充先生(美術科教育学会/愛知教育大学名誉教授)に、図工・美術科の教育課程を考えるための資料を紹介して頂き、それを受けて、「米国における 21 世紀型スキルの美術教育への展開」について、徳雅美先生(カリフォルニア州立大学チコ校・教授)にご講演を頂きました。その後、パネルディスカッションに移り、大橋功先生(日本美術教育学会 岡山大学准教授)の司会のもとで3名のパネリストを迎え=神林恒道先生(日本美術教育学会/大阪大学名誉教授)、増田金吾先生(大学美術教育学会/東京学芸大学教授)、永守基樹先生(美術科教育学会/和歌山大学教授)、それぞれの学会を代表して、多様な側面から美術教育の意義や可能性について語って頂きました。約80名の参加があり、限られた時間の中で多くの方から様々なご質問・意見を頂きました。

平成 27 年度、日本美術教育学会静岡大会が熱海市のMOA美術館で、また、平成 28 年度、美術科教育学会静岡大会が静岡市のグランシップで開催されます。今回の合同シンポジウムの議論は、このあと静岡で催されるそれぞれの学会の全国大会に繋げていきたいと思っています。

【総務局広報室】

芳賀正之(静岡大学)
佐藤賢司(大阪教育大学)
新野貴則(山梨大学)

